

進捗状況の概要（1ページ以内）

・学内の実施体制

平成 28 年度に採用したプログラム関連科目等の準備や授業担当をするための任期制教員の雇用、および、プログラムのための事務スタッフの雇用を継続し、本事業を積極的に推進した。

平成 29 年 4 月に、服装学部・現代文化学部 USR 推進室に造形学部を加え、文化学園大学 USR 推進室として全学組織へ拡充した。これによって、本事業の拡大および事業終了後の継続に向けた土台を構築することができた。

・中心となる取組

本格的な実施となる平成 29 年度は 1・2 年次を対象とする梅春学期科目の開講科目数を国内 11 科目（定員 55 人）・海外 7 科目（定員 53 人）の合計 18 科目（定員 108 人）と大幅に増やした。また、3 年次学外学修プログラムとして「グローバルファッションマネジメント実習」のほかに新たに「ニューヨークパターン研修」を開講し、対象学生の増加をはかった。その結果、梅春科目および 3 年次学外学修プログラムに国内海外合計で 83 人が参加し、参加学生の大幅な増加を実現することができた。さらに、平成 30 年度以降の量的拡大や質的充実に向けた、本学固有の利点や課題を共有することができた。

・取組の成果

ファッション分野における「グローバル創造力」の養成を目指す本事業において、海外学修プログラム及び国内学修プログラム（梅春科目）はグローバル化に対応する必要性への「気づき」を得る機会を初年次および 2 年次学生等に与えることを目的としている。本格的実施にあたり、オリエンテーションなどを通じて学生に対してこの点を周知した結果、海外・国内プログラム共に、グローバル化に対応する必要性を自覚する学生の参加があった。海外学修プログラムでは、専門的な職に就く際にはコネクションが日本よりも重要となることなどキャリアデザインに直結するような、より明確な「気づき」を得る機会を学生に提供することができた。また、国内学修プログラムに参加した学生からは、2 年間の学修を振り返りその意義を再認識するための機会となったという報告があり、グローバル化への対応の必要性以外の「気づき」を得る機会も提供することができた。

・補助期間終了後の継続発展に向けた取組

本事業に関する主たる審議・決定機関である「AP プログラム推進協議会」は、大学の常設委員会である「国際交流委員会」とほぼ同じ構成となっており、補助期間終了後は「国際交流委員会」が本事業を含め、大学の国際交流を推進していく体制にある。また、本事業に携わる教員の組織である「AP 対応ワーキンググループ」が置かれる「文化学園大学 USR 推進室」は、独自の予算を有する常設の機関であり、補助期間終了後も組織として存続することになっている。

これらを前提として、補助金期間終了後の体制については今後検討することとしている。

・学内外への波及効果

平成 29 年 11 月に Raffles College of Design and Commerce（オーストラリア・シドニー）の教員 2 人と国内学外学修プログラムの受け入れ先担当者 1 人を招聘し、「国際シンポジウム」を実施した。これにより本事業の活動内容やその意義を広く外部に発信することができた。

また、平成 29 年 11 月にファッションビジネス学会で報告を行い、外部評価を受けた。これにより効果的な学修機会を提供し、事業を推進させるための取組改善につながる意見を得ることができた。